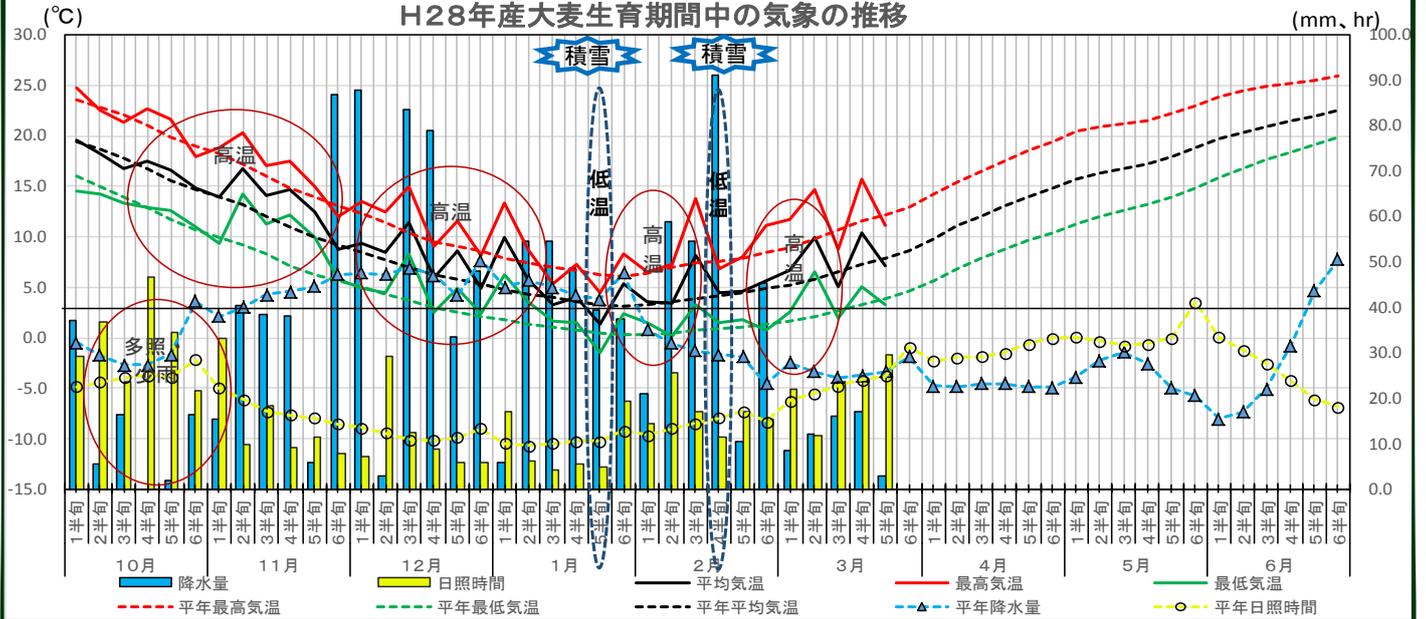


# H28年産大麦情報第4号

平成28年3月29日  
J A 松 任  
白山石川営農推進協議会

**出穂10日前の追肥で子実の充実を！！**  
**赤かび病等の病害防除で品質の向上を！！**

## 1. 大麦生育期間の気象経過(10/1 半旬～3/5 半旬) 金沢アメダスデータ



### ※北陸地方 4・5月の予報(3/25 新潟地方气象台)

4月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、高い確率50%です。

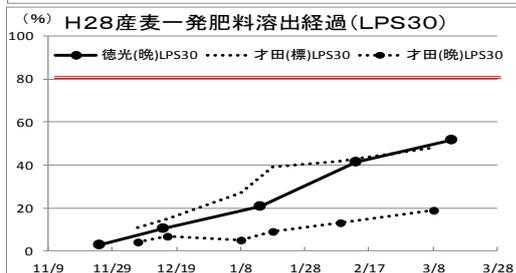
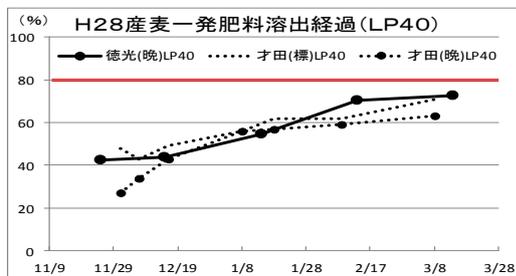
5月 天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

## 2. 生育状況(3/24 観察調査)

3月は一時的に低温の時期もあったが全般的に高温で経過し、茎数は多い。止葉も展開し、走穂が立ち始める圃場も散見され、出穂期は7日程度早まり早いところでは4月9日頃の見込みで、圃場内でもバラつくことが懸念される。

3月28日早朝に降霜があり、不稔粒の発生が懸念される。

管内圃場の一発肥料の溶出は、他地区よりも早まっていると予想される。



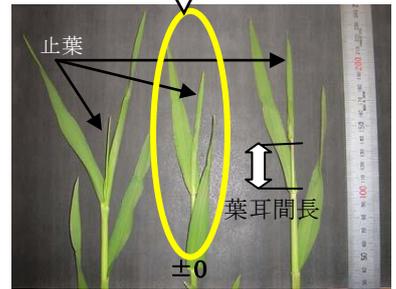
〈裏面へ〉

# 《今後の管理について》

## 1. 止葉展開期の追肥について

不稔粒の多発が懸念される圃場や葉色が薄い(葉色板値5未満)圃場は、充実を向上するために施用して下さい。

圃場全体の 30~40%が止葉展開



時期	肥料名	施用量 (10a 当たり)
出穂10日前頃	BBNK17	6kg

※時期の目安は止葉が展開したとき(出穂 10 日前頃)

## 2. 赤かび病等の病害防除について

出穂後3~5日の穂揃期、その1週間後の2回防除を徹底して下さい。

対象病害	防除時期	薬剤名	10a 当たり 使用量	使用回数
赤かび病 <small>(全ての薬剤で適用)</small> 雪腐大粒 菌核病	第1回 出穂後3~5日 (穂揃期)	トップジンM 粉剤 DL (粉剤体系)	4 k g	出穂期 以降は 1回 以内
		トップジンMゾル (液剤体系) ※無人ヘリ対応可能薬剤	薬剤 66ml 1,500 倍希釈 (水 100 <sup>リットル</sup> )	
網斑病 うどんこ病 赤さび病 雲形病 網斑病 うどんこ病	第2回 1回目散布の 1週間後	ワークアップ 粉剤 DL (粉剤体系)	3 k g	3回 以内
		チルト乳剤25 (液剤体系) ※無人ヘリ対応可能薬剤	薬剤 66ml 1,500 倍希釈 (水 100 <sup>リットル</sup> )	1回

※生育旺盛な圃場では、うどんこ病の多発が懸念されるので、薬剤防除を徹底すること。

## 3. 大麦圃場内の周縁部の除草について

薬剤名	使用場所	対象雑草	使用時期	10a 当たり使用量		使用回数
				薬量	希釈水量	
プリグロックスL	圃場内の 周縁部	1年生 雑草	雑草生育期	600~ 1000ml	100~ 150 <sup>リットル</sup>	4回 以内
ラウンドアップマックスロード	圃場内の 周縁部	1年生 雑草	収穫前日まで (雑草生育期)	200~ 500ml	50~ 100 <sup>リットル</sup>	3回 以内

## 4. 排水溝の点検について

出穂期以降は特に湿害の影響を受けやすく、また、この時期は周囲の水田や用水からの漏水が生じやすいので、排水溝のつなぎ等を再度点検し、圃場内の排水に努めて下さい。



「少しだから大丈夫」を  
「少しだけど要注意」へ。

インターネットから管内JA農事メモ、きれうま通信等の営農情報を見ることができます。

あぐりナビ 白山野々市 で検索を!